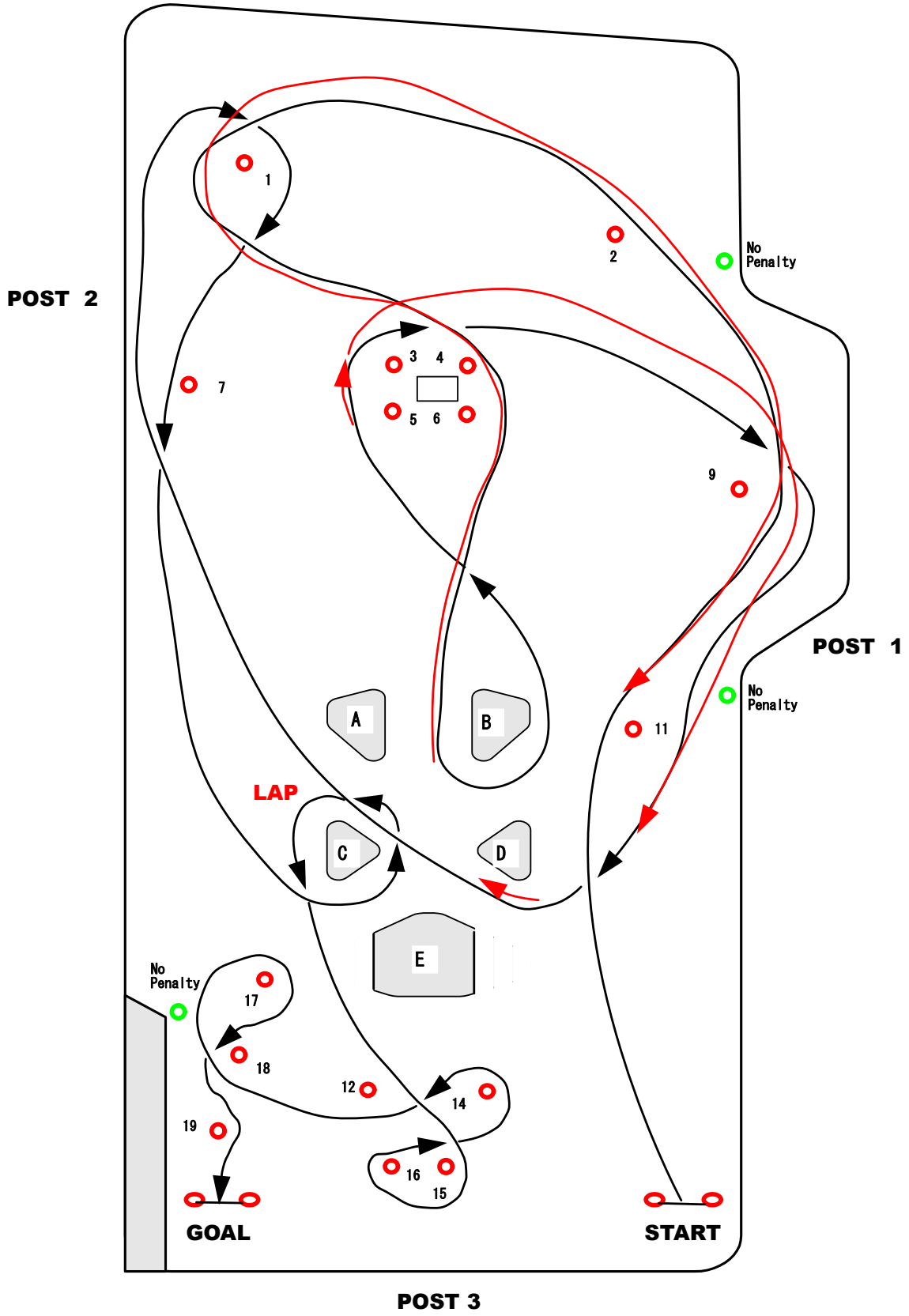


2020. 09.13



コース作成の意図

このコースのスタートから**9**番の横を抜ける時のイメージは、アクセル開度**90%**パーシャルです。天候などにより土手に刺さらないように配慮しますがアクセルを少しだけ抜いた状態で抜けるように**9**番と**11**番を置きます。全日本なら**98%**パーシャルだと思います。個人的な見解ですが、アクセル開度は**100%**にしますが、アクセルを床まで踏み込むことはありません。床まで踏む癖をつけてしまうと感覚が麻痺して**120**、**150%**踏んでいる状態から少し抜いたつもりでも全開のままになってしまう事が多いからです。ペダルストロークとアクセル開度がリニアに掴めている人、**98%**パーシャルができる人ならば、床まで踏んでも全く問題はないと思います。

1番のように回り込むラインを考えると、島**B**から**11**番まで逆走した時に通るラインがタイヤの摩擦円、物理的なタイヤの限界付近になる可能性が高いので、立ち止まって振り向いて攻略法を検討します。

島**B**を立ち上がって**4**本パイロンを通過する時点で**1**番までのリズムが決まる可能性が高いので、先が長いセクションは**1**番のアプローチから組み立てる。**4**駆は、どうせブレーキを踏むのだからその時間の中でサイドを引いて距離を詰めようという人もたくさんいると思われます。**2**駆は、サイドを引かないからクリップを少し奥にとって**50%**パーシャルで**9**番に向かうなど、車の仕様に合わせてラインを考える人もいます。島**D**を通過するときどこでアクセルに足が載っているか覚えておいてください。聞かれたら答えられるように。

1番を折り返すときは、サイドを引くのか引かないのか、自分の車とリズムで各々ラインを換えて距離と速度の損得勘定です。

島**C**にパイロンが置いていない理由も気にしていただければと思っています。

15番のアプローチで全て成否が決まるので、ブレーキングポイントを決めて走ると精度が変わります。島**C**が巧く回れた場合とそうでない場合、ここのブレーキングで取り返すことはできないので精度を上げることを考えた方が全体としては良策と考えます。

16番からゴールまで、最後までサイドターンとアクセルコントロールセクションです。

毎回必ずではありませんが、コースを作る前にテーマを決めて作ることが多い、例えば、あんなの作るコースは直線がないと言われることがあるので、今回は黙って**1**本直線入れましたということもあります、何をさせようとしているのかが解れば攻略はし易いと思っております。